

## 集会決議

福島事故から3年が経ちます。

今なお、年間被ばく線量基準1ミリシーベルトを超える地域に、膨大な数の人々が住み、日々の被ばくを強いられています。甲状腺ガンとその疑いのある福島県の子どもは74人にのぼります。原発での作業や除染作業による被ばくは深刻です。そして福島県からだけでなく15万人もの人々が、故郷を離れ、家族離れ離れの中で生活しています。しかし政府は、帰還困難区域を縮小し、補償・賠償を打ち切ろうとしています。

事故現場ではおびただしい量の放射能が大気中へ放出され続け、汚染水の漏えいが相次ぎ、使用済み燃料や汚染物の管理に悩み、原発炉心の現状把握すらできていません。

私たちは、今まさに進行している福島原発事故による被害を、少しでも食い止めたい、そしてこの惨禍を決して繰り返してはならないと、今日、ここに集まりました。

2011年3月11日から始まった体験によって、日本も「脱原発」の流れを加速させようと、2012年3月10日、2013年3月9日に、ここ円山音楽堂で「バイバイ原発きょうと」を開き、デモ行進を行ってきました。

昨年9月以降、再び原発ゼロ運転が続いています。「脱原発社会早期構築」は実現可能です。しかしいま政府は国民・市民の声を無視し、原発推進をうたう「エネルギー基本計画」を決定しようとしています。そして大飯3・4号炉、高浜3・4号炉をはじめとする原発の再稼働を行おうとしています。断じて許すことはできません。

私たちは以下を決議し、その実現に向けて、共に歩みます。

- ・ 原発のない社会をつくろう
- ・ 国のエネルギー政策を転換させ、再生可能エネルギーを普及しよう
- ・ 大飯・高浜はじめ、すべての原発の再稼働に反対しよう
- ・ 福島原発事故によって奪われた健康と生活の保障を、国と東電の責任で実現させよう

2014年3月8日 「バイバイ原発3・8きょうと」参加者一同